

(有)早野研工

大垣市・製造業(板金加工)

従業員数/男性28名 女性13名 計41名 ※令和5年12月現在

エクセレント
POINT

- ①研修の一環で、オリジナル商品を開発
- ②新卒社員が手掛けた焚き火台が、日本最大級の展示会でグランプリ獲得
- ③インターンシップの商品開発支援など、地域貢献に注力



入社1年目のときに焚き火台「Firebase」を開発した松井勇樹さん。焚き火台は「東京インターナショナル・ギフト・ショー春2021」でグランプリを獲得した。

早野研工のスローガンは「待ち工場」から「価値工場」に。自動車や建設機械関連の金属加工だけでなく、オリジナル商品の開発に積極的に取り組んでおり、毎年の新卒社員の研修カリキュラムにもなっている。

2020年に入社した松井勇樹さんは入社1年目の時、組み立て式の焚き火台を形にしたところ、

オリジナル商品の開発通して技術習得

日本最大級の展示会「東京インターナショナル・ギフト・ショー春2021」においてグランプリに選ばれた。松井さんは「焚き火台を商品化したいという思いがあったから、CADや機械操作を短時間で習得でき、今につながっている。仕事に慣れるという点でも任せていただけて良かった」と振り返る。

パートを含めた女性の商品開発チームもあり、「町工場で働く女性の声から生まれたアクセサリ」と名付けて真鍮のイヤリングやキーホルダーなどを手掛け、ネットショップや地元のマルシェで販売している。入社4年目の岩田葵さんは「マルシェで般の方と接することは、モノづくりへのモチベーションアップにつながっている」と話す。

商品開発への熱い思いは、インターンシップの高校生や大学生にも惜しみなく伝えている。3日間



パートやインターンシップの学生の商品開発をサポートしている。打ち合わせ時なども、自分の意見や考えを言いやすい雰囲気広がっている。

程度の短期インターンシップでも、キーホルダーづくりを実施。過去には半年間の長期インターンシップをした学生が、機械操作を二から覚えてカードゲームをする際に使うカウンターを製作、クラウドファンディングにまで挑戦した。カウンターは今でも販売されており、ゲームファンの間では知る人ぞ知る人気商品となっている。